

無料の、おもちゃ病院

「音がならなくなってしまった」「コインが詰まってしまったんです」「歩くのが動かなくなっちゃった」。ある晴れた土曜日。大分市市民活動・消費生活センター「ライフパル」には、大切なおもちゃの「診療」を希望する家族が集まった。応対するのは壊れたおもちゃを修理するボランティア団体「大分おもちゃ病院」の「おもちゃドクター」たちだ。

時間をかけて丁寧に「問診」し、原因を探る。「早く良くなるといいね」「これは電池切れが原因かな。大丈夫みたいだよ」。全てボランティアで、特別な部品が必要な場合を除き、無料で診療している。

おもちゃ病院の活動は全国に広がっている。大分では日本おもちゃ病院協会(本部・東京都)の講習を受けた人たちを中心に、2012年から活動。月に2回の定期診療の他、イベント会場などで開院している。

ドクターたちは「子どもたちの笑顔がやりがい」と口をそろえる。「『やったー』と喜ぶ表情が見たくてやっているようなもの」。メンバーの多くは退職世代で、経歴はそれぞれ。木工、プラスチック接着、金属加工と得意分野があり、足りない道具は自分たちで作って対応することもある。

持ち込まれるのは思い入れのある品ばかり。寺司健一会長は「お父さんやお母さんが修理した跡が分かるものがある。大事にしているのが伝わってくる」。子どもが昔遊んでいたおもちゃを、孫のために直したいと持つてくる祖父母世代もいるという。

欲しいものは24時間、手に入る時代。「物を大切にしよう」という気持ちは、言葉で伝えるよりも、愛着のあるものを修理して使うという体験を通じて宿るものかもしれない。全ての「エコ」に通じる一步だ。



子どもたちが持ち込んだ大切なおもちゃを診察

フードバンクは、包装の破損や印字ミス、賞味期限まで短くなつたといった理由で、品質には問題がないが市場に流通できない食品などを企業・個人から募る。1967年に米国で始まり、日本では2000年代に入つて設立が進んだ。08年のリーマン・ショックに伴う不景氣で、生活保護受給者が増加。以後、取り組む団体が全国的に増えている。食品ロスの有効活用を目指し、農林水産省が推進している側面もある。

フードバンクおおいたには、これまでに7161点(8.5kg)の食料が寄せられた(10日現在)。収入が平均の半分より少ない「相対的貧困」の世帯や生活困難者らに市町村社協などを通じて配布。子ども食堂の運営にも提供している。

協力団体は、食品関連企業だけではない。賞味期限が近付くと従来は廃棄されていた、災害

食べ物を必要な人へ広がるフードバンク

食べ物に困っている人に、余っている食品を無料で提供するフードバンク。廃棄物を削減し資源を有効活用しながら、食事が十分にとれない人をサポートする、二つの課題を同時に解決しうる仕組みとして注目を集めている。大分県では県社会福祉協議会が昨年6月、「フードバンクおおいた」を設立。企業・団体や個人から食料、寄付を募り、必要な人へ提供する活動を続けている。



フードバンクおおいたに寄せられた食品

家庭で余っている食料品を、一定の場所に持ち寄りフードバンクを通じて活用するもの。日時や期間を決めて店舗などに箱を置いて募つている。寄せられる品は特に米が多く、調味料、缶詰、菓子、食用油などが目立つという。

「コーブおおいた」の組合員からは定期的に提供があり、「ホームページを見た」と直接持ち込んでくれる個人もいる。徐々に知られてきていることは感じています」と担当の日野剛さん。「困っている人のために活用してもらいたい」という気持ち、もつたいない気持ちはあるが、もつたない気持ちもありがたいが、賞味期限など注意していただきたい点との兼ね合いもある。周知を図つていきたい」。

農水省の推計(14年)では、まだ食べられるのに廃棄されている食料は1年間に約621万トン。うち282万トンは家庭から出ている。ボランティアとして誰でも協力できるフードバンク。地域を巻き込んだ取り組みとなるよう、活動を広げている。

用の備蓄品の提供もある。パチンコ店を展開する企業からは景品用の菓子が寄せられている。

お中元お歳暮の時期などに実施する「フードドライブ」も重要な取り組みだ。いただきものや、つい買いすぎてしまったものなどまだ十分食べられるのに

家庭で余っている食料品

を、一定の場所に持ち寄りフードバンクを通じて活用するもの。日時や期間を決めて店舗などに箱を置いて募つている。寄せられる品は特に米が多く、調味料、缶詰、菓子、食用油などが目立つという。

「コーブおおいた」の組合員からは定期的に提供があり、「ホームページを見た」と直接持ち込んでくれる個人もいる。徐々に知られてきていることは感じています」と担当の日野剛さん。「困っている人のために活用してもらいたい」という気持ち、もつたいない気持ちはあるが、もつたない気持ちもありがたいが、賞味期限など注意していただきたい点との兼ね合いもある。周知を図つていきたい」。

農水省の推計(14年)では、まだ食べられるのに廃棄されている食料は1年間に約621万

トン。うち282万トンは家庭から出ている。ボランティアとして誰でも協力できるフードバンク。地域を巻き込んだ取り組みとなるよう、活動を広げている。

寄せてほしい食品

- ◎穀類(米、麵類、小麦など)
- ◎保存食品(缶詰、瓶詰など)
- ◎調味料、食用油
- ◎インスタント食品、レトルト食品
- ◎飲料(ジュース、コーヒー、紅茶など)
- ◎乾物(のり、豆など)
- ◎粉ミルク、ベビーフードなど

食品を提供する際の注意点

- ◎賞味期限が記載されているもの
- ◎賞味期限が1ヶ月以上あるもの
- ◎未開封のもの
- ◎破損などで中身が出ていないもの
- ◎米は常識の範囲で古くないもの

子どもの貧困に対処するため

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協

力も不可欠だ。「食品ロス削減に

ついては、関係各所と協議会を

つくるなどして検討を続けた

い」という。

の学校との連携、現在は専用施

設ではない倉庫に保管してお

り、管理をどうするかといった

課題もある。大量の食品の受け

入れを調整し、機動的に配布す

るには、ボランティアなどの協